



地域日本語支援ニュース こだま 第 257 号

2014.6.26



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■地域の活動から■

「やさしい日本語短歌」のすすめ 立花 敬

2■進学進路ガイダンス情報■

高校進学説明会情報(7月・9月・10月)

3■AJALT からのお知らせ■

日本語教師のための夏の教え方講習会

=====

1■地域の活動から■

「やさしい日本語短歌」のすすめ

立花 敬

(公社)国際日本語普及協会所属の日本語教師である立花敬さんは、日本語を学んで1年ぐらいの人が作れる「やさしい日本語短歌」を広めたいと活動しています。今回は、その「外国の人の声を伝える短歌の世界」をご紹介します。皆様の周りの外国の方たちの中にも、知られざる歌心を持つ人がいるのではないのでしょうか。

日本に住む外国人に短歌を作らせてみたい、そんな思いを持ったのは、8年ほど前のこと。難民支援のボランティアをされていて、あるミャンマー難民に出会いました。彼は政治活動をしたため母国を逃れ、難民になろうと日本に来ましたが、収容所に入れられたりして、難民認定を得るまで2年以上かかりまし

た。彼は詩を書いて耐えたといいます。日本語に訳されたその詩は、過酷な人生体験を訴えて、私の胸を打ちました。その時、彼が日本語で直接訴えることができたと思ったのです。

私は長年短歌を作ってきました。日本に住む外国人のための「やさしい日本語」ということが言われています。そこで、日本語を学んで1年ぐらいの人が作れる「やさしい日本語短歌」を広められないかと思ったのです。

いつの間に子どものころにあこがれた絵本の国に誘い込まれた／

チン ソクイ（台湾）

一番の料理はタラポ米を入れ蛙を入れて葉っぱを入れる／

チャーセイン（ミャンマー）

ここに二人の短歌を紹介しました。ボランティアとして日本語を教えるかわら、外国人に短歌をすすめてみました。チンさんは、台湾出身の日本語上級者です。絵本は浦島太郎のことだそうです。チャーセインさんはミャンマー出身で、日本語は初級終了程度です。二人とも生まれて初めて作った短歌です。作者の思いが感じられますね。

日本に住む外国人が、短歌を通じて互いの声の交換ができれば、というのが私の願いです。お知り合いの外国人で、この「やさしい日本語短歌」を作ってみようという人がいたらご紹介ください。

下のメールアドレス宛にご連絡いただければ、ご返事します。件名を「やさしい日本語短歌」として、できた短歌と名前（ペンネームでもいいです）と出身国を書いてくださるとありがたいです。

（メールアドレス：tak-tm@ac.auone-net.jp）

梅雨に入って雨が続いています。わが家では、インコを2羽買いました。私が作った2首です。名前はペンネームです。

友だちがくれたアロエは肉厚く大きな水の玉をのせてる／間瀬 敬

インコ二羽まだ飛べなくて巣の中で緑と青の体寄せ合う
